（様式３）

# 平成２０年度　傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究費区分　　①都市形成に関わる研究　②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究

| 研究代表者所属 | システムデザイン研究科<br>経営システムデザイン専修 | ﾌﾘｶﾞﾅ<br>研究代表者氏名 | ｶﾜｶﾐ　ﾐﾂﾕｷ<br>川上　満幸 | 職 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|
| 研究分担者所属 | システムデザイン研究科 | 研究分担者氏名 | 全専任教員 | 職 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 研究課題名 | 大学院教育「品質保証型・教育評価システム」の開発 |
|---|---|

研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）

本研究では、文部科学省の大学院GPへの申請及び採択を念頭におき、システムデザイン研究科における大学院教育の質的向上を可能とする教育プログラムについての検討を行うとともに、実際に試行を進めた。本プログラムは、教育課程の品質及びそれによって培われる学生の専門的資質・能力の品質を対外的に保証することを最大の特徴としており、その実現のために、特定の専門性に偏らない広範な知識や方法論の獲得、PBL教育を重視した問題解決力の養成を具体的な課題として取り組んでいる。前者に関しては、１研究科１専攻という本研究科の特色を活かし、自身の所属する専修以外の専修が提供する講義科目を各自の研究における必要性や自主的な興味に応じて柔軟に履修可能な体制を用意するとともに、分野の異なる複数の教員による多元的な研究指導を通して、広い視野に立った研究開発能力の養成を可能とする。後者に関しては、プロジェクト型演習科目を通して自主的・自立的な思考力、実践力、問題解決力を養うとともに、国内・海外インターンシップにより産業現場での工学の役割や純粋に学術的な立場だけでは解決が困難な事例とその解決方法を体感し、その経験を自身の研究活動に還元することで、更なる成長の促進を実現する。本研究は平成19年度の部局分傾斜研究費の一部を活用して準備が進められており、各項目の試行が開始されている。本年度は、本研究予算を上記項目の実現に必要な基盤整備に重点的に充て、各項目の積極的進展に努めた。また、この教育プログラム及び教育評価システムの現段階での評価と整理、国際的な観点からの見直しや教育活動そのものの活性化を目的に、8カ国11機関からの約100名の参加による「システムデザイン国際セミナー2008」を、本キャンパスで3日間にわたり開催した。今後、これら項目の完成度を高めながら、その有効性を外部評価も含めて多面的に評価し、その結果をプログラムの充実にフィードバックしていく必要がある。

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）

論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）